

---

# ガスマスクと同僚

富士堂あかり

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ガスマスクと同僚

### 【Nコード】

N3412Z

### 【作者名】

富士堂あかり

### 【あらすじ】

私の部署の同僚が変なんです

ガスマスクを被った青年秋元君とその同僚との少しずれた日々  
短編ガスマスクと同僚の続きです。

## ガスマスクとコーヒー

どうも、都です（前は名前も出してなかったんだよね、今後もお世話になりそうなので一応自己紹介です）。あれからまた少し経ってガスマスクもとい秋元さんとはぎこちないながらも少しずつお話をしています。

とはいったものの秋元さんには未だ彼の顔面に張り付いたガスマスクの子細を尋ねてはいない。気になってはいるもののなかなか自然に質問出来るタイミングもなく気がつけばガスマスクのことなんか忘れている位。正直なところこの個人的な質問で何か問題が起きてしまう位なら黙っていた方がいいんじゃないか、と少し大人になった私なのだけど如何せんもう一つ気になることがある。

「コーヒー飲みたい人ー！」

智美の声に反応してパソコン片手に手を挙げる数名。そしてその中に彼はいた。

そう、彼は…ガスマスクは、コーヒーを飲むのだ。いや、飲んでるらしいのだ。

気がついたのは数日前。彼のデスクに置かれたマグカップで湯気を燻らせていたそれを見てふと、彼がどうやってそれを飲んでいるのか疑問が湧いた。

秋元さんがガスマスクを少しでも脱いであるところを私は見たことがない。彼のガスマスクの防御は階段を登る女子高生のスカート並に完璧なのだ。いや、ただの例えだけ。



「あ、都さんもコーヒー欲しいんですか？」

「えっ……は、はい!!!？」

欲しいなら手をあげればよかったのに、と何が楽しいのか笑い声と聞きなれた呼吸音を響かせながら秋元さんはすつと私のデスクからマグカップを取って熱々のコーヒーを注いでいく。何がなんだか、そう思っているうちに目の前になみなみに入ったコーヒーを差し出されてありがとうございます、と彼の手からマグカップを受け取った。湯気をぼんやり眺めながら恥ずかしいことをしてしまったと顔の熱いのを蒸気のせいにながら一口すすって、ふと視線を上げたら彼の手からマグカップが落ちるのを見てしまい理不尽だ、と自分の間の悪さを呪った。

相変わらず彼のガスマスクは少し曇っているだけで、なみなみ注がれてたはずのコーヒーは少しだけ水位を下げていた。

おまけ的な……

「……あの、秋元さん」

「なんですか、都さん」

「……もしかして秋元さんって正義の味方とかだったりします？」

「？」



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3412z/>

---

ガスマスクと同僚

2011年12月11日19時51分発行